

THE WEEKLY NEWS OF EAST KISARAZU



国際ロータリー第 2790 地区
木更津東ロータリークラブ

2021-22 年度

●例会日 毎週水曜日 PM12:30~1:30 ●例会場 オークラアカデミアパークホテル TEL 0438-52-0111
●事務局 木更津市朝日 1 丁目 2-29 シグママンション朝日 B 棟 105 号 TEL 0438-25-0716 FAX 0438-25-0718

2021-22 年度国際ロータリーテーマ

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために
SERVE TO CHANGE LIVES

第 24 回例会 NO. 2545

2022 年 1 月 19 日

【 田口理紗会員のペット 】



【ミクちゃん】

■司会進行 有島敏夫 SAA



◆点鐘 12時30分
渡邊慎司会長

◆Rソング 斉唱
「手に手つないで」



◆メイクアップ

・1/19 第7回定例理事会
渡邊慎司・吉田和義・鶴岡大治・
佐藤丈夫・加藤智生・松岡邦佳・
石田 亨・林孝二郎

・1/21 21-22 年度
地区ロータリー財団統括委員会
堀内正人

◆四つのテスト 鶴岡大治会員

◆出席 会員 42名 ◆出席率 74.35%
出席 29名 ◆前々回出席率 74.35%
欠席 13名 ◆修正後出席率 79.48%

◆欠席者【敬称略】

石井文子・叶川博章・倉島和弘・嶋津正和・
鈴木秀幸・趙 亜南・中野麻美・林田謙治・
堀内正人・宮寺順子

ホームページ <https://kisarazueast-rc.jp>



木更津東ロータリークラブ

会 長 渡 邊 慎 司
幹 事 吉 田 和 義
編 集 大 岩 も え

国際ロータリー第 2790 地区

RI 会 長 シェカール・メータ
地区ガバナー 梶 原 等
ガバナー補佐 鈴 木 荘 一

◆ゲスト紹介

渡邊慎司会長

◇池田 順様

◇駒 早苗様



◆誕生日祝い

内田重 (1/17)



◆結婚記念日祝い

渡邊元貴 (1/17)・鈴木克己 (1/18)

◆R財団表彰

渡邊慎司会長

◇渡邊慎司会員 (ポールハリスフェロ - 第1回)



◇小林裕治会員 (ポールハリスフェロ - 第3回)

◇大隅義一会員 (ポールハリスフェロ - 第4回)



◆米山記念奨学会表彰

渡邊慎司会長

◇山田平会員
(第21回マジヤトナー)

◇平野秀和会員
(第6回マルパブル)



◇内田稔会員 (第5回マルパブル)

～ロータリーについて知ろう～

第20回目

会員歴の短い方は、インターアクトとロータリーアクトの違いを知っていますか。簡単に言ってしまうと、12～18歳の中学・高校を対象としているのがインターアクト。18歳以上の若い人たちの集まりがロータリーアクトです。(RIホームページによる)

インターアクトクラブは、少なくとも年に2回、プロジェクトを実施します(ひとつは学校または地元地域でのプロジェクト、もうひとつは国際理解を促進するプロジェクト)。インターアクトは、地元ロータリークラブからの指導と支援を受けてプロジェクトを実施し、リーダーシップを養います。

ロータリーアクト会員は、クラブの組織、運営、資金管理、活動や奉仕プロジェクトの計画・実施を自ら決定することができます。スポンサーとなるロータリークラブが奉仕のパートナーとしてロータリーアクトを指導・支援します。

木更津東ロータリークラブでは、木更津総合高校のインターアクトと一緒に活動しています。



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために



皆さんこんにちは、オミクロン株によるコロナウイルス感染者の増加が懸念される中、例会出席ご苦労様です。先日もご案内した感染対策を行って頂ければ、例会時における感染リスクを低減できると考えております。また、例会場での出席が難しい方のためにオンラインによる出席も出来るようにしました。ZOOMによるオンラインですが、無料バージョンになっていますので、4名以上だと40分以内での接続となり、卓話の前に再度接続して頂く必要がありますので、よろしくお願ひいたします。

ここ最近様々なニュースが流れています。東大前の無差別殺人や、踏切での列車と自動車の事故、北朝鮮によるミサイルの発射実験、そして、トンガで起こった海底火山の大規模噴火です。現在も現地との通信が遮断されている状態で、被災状況など詳しい状況が分からない状態です。また、多くの島があるトンガでは全体の被害状況を把握するのは大変困難ではないかと思ひます。報道では多数の犠牲者が出たとの情報はないと報じられていますが、噴煙により飲み水が不足してしまうのではないかと心配していました。

トンガの人達は東日本大震災の時に、里芋や義援金が日本に送られていたそうです。そして今その恩返しをしたいという声が上がっており、駐日トンガ王国大使館には寄付先の問合せが多く寄せられているという事ですが、現在は現地との連絡が取らないそうで、トンガ大使館では連絡がとれ、寄付金について決まり次第SNSなどで報告するとしています。今後私達も寄付を集めて義援金を送りたいと考えていますので、その節はご協力をお願い致します。

本日は池田様と駒様にお越し頂き、「幻に終わった木更津の副県都構想」と題して卓話をして頂きます。木更津の歴史を学ぶ事は大変重要だと思ひます。木更津には沢山の歴史上の出来事や、史跡も多くあります。木更津だけでなく縄文時代の集落跡や、多くの古墳なども存在しています。改めてこの地域が辿ってきた歴史を振り返り、後世に伝えていくことは大変重要な事だと思ひます。

木更津市制70周年を記念して発刊された「図説 木更津のあゆみ」を見てみると、古代から近代まで幅広く掲載されており、そのページ数は290ページにも及びます。また、「木更津市史」本編を編さんするための基礎資料として、「木更津市史研究」が平成30年3月に創刊され、現在では第4版まで出版されています。ご興味のある方は朝日庁舎の教育部文化課に

て購入できます。ちなみに、木更津市史研究は1冊500円になります。

皆さん、木更津における国の重要文化財と言えばなんですか。金の鈴で有名な金鈴塚古墳です。今では古墳の一部が残されているだけになっています。嘘か本当か分かりませんが、古墳の周りの田んぼや蓮田の地盤が悪く、古墳の山を削っていたから周りの土が無くなってしまったと、長須賀の人がいっていました。

私もわくわく広場でレンコンを販売していますが、金鈴塚古墳の近くで栽培しているので、金鈴バスと名付けて売っています。会社名のG.B.L.FARMもゴールデン・ベル・ロータスの頭文字をとって社名としました。

自分たちの地域の歴史を学ぶ事は、この木更津を築いてきた先祖の人達に敬意を表すことになると思ひます。その時々にあった歴史の面影を思い浮かべ、その現地に赴いて見て小さな発見をする事も面白いでしょう。

本日は短い時間での卓話ですが、木更津の歴史に触れることを楽しみにしております。



1.第7回理事会報告

出席者9名+オブザーバー1名+事務局

◆審議事項

- ①2021年度12月収支報告の件
→承認されました。
- ②ボーイスカウト・ガールスカウト3分団への寄付金の件→承認されました。

2.幹事報告

- 1) 2021-22年度ガバナー事務所よりロータリー学友の合同プロジェクト「コロナ感染予防のための手洗い動画」作成のご案内とご視聴のお願いが届いておりますので回覧いたします。
- 2) 2021-22年度ガバナー事務所より富里ロータリークラブ事務局・例会場であるホテルの名称の変更のお知らせが届いておりますので回覧いたします。

3.他クラブからのお知らせ

なし

4.その他のお知らせ

なし

5.回覧

- ・2021-22年度ガバナー事務所よりロータリー学友の合同プロジェクト「コロナ感染予防のための手洗い動画」作成のご案内とご視聴のお願い
- ・2021-22年度ガバナー事務所より富里ロータリークラブ事務局・例会場であるホテルの名称の変更のお知らせ

■委員会報告

- ◆ニコニコボックス報告・出席報告
親睦出席委員会 板谷優作会員



◇石田亨会員

本日は木更津史編集委員会より池田様と駒様においで頂きました。卓話を楽しみにしています。よろしくお願いいたします。

◇山田修平会員

米山記念奨学会から第21回メジャードナーの表彰を頂きました。ありがとうございました。

◇平野秀和会員

米山記念奨学会の表彰を頂きました。ありがとうございました。

◇渡邊元貴会員

美しい結婚祝いの花束が届きました。妻も喜んでいました。ありがとうございます。

◇鈴木克己会員

お祝い頂きありがとうございます。47回目のことです。二人揃って金婚式を迎えたいものです。

◇内田重会員

みなさんこんにちは。後期高齢者の仲間入りとなりました。毎朝行っているラジオ体操をこれからも頑張ります。

■例会アワー

担当：石田亨副幹事



◆卓話者

◇木更津市史近現代部会長 池田 順様



◇木更津市史編集委員 駒 早苗様

テーマ

「幻に終わった木更津の副県都構想」

今から約60年前の加納久朗知事の時代(1962年11月~63年2月)、木更津地区を大工業都市化し、副県都として整備しようという構想が持ち上がります。その構想はどのようなもので、それがなぜ幻に終わったのか、などの点についてお話いたします。

1 加納構想

・加納久朗氏の略歴
1886(明治19)年生まれ、父は旧一宮藩主加納久宜。東京帝国大学法科大学卒業後、横浜正金銀行に入り、同行のロンドン支店長、取締役などを歴任。戦後、函館ドックなど各種企業の取締役等をへて、1955(昭和30)年に日本住宅公団初代総裁に就任。公団総裁時代には、晴海埠頭から富津岬を結ぶ線の千葉県側を埋め立て、そこに新しい首都を建設するという東京湾の大々的な開発構想を発表します(『新しい首都建設』)。1962(昭和37)年10月、千葉県知事選挙で4選をめざした柴田等知事を破り当選しますが、在任110日で急逝。

・加納構想の内容
加納知事のもとで、1975(昭和50)年を目標とする新しい総合開発計画が策定されます。→
【参考資料】「その特色は富津一三浦半島間の東京湾横断橋建設を前提として木更津地区を大工業都市化」する、「県都千葉市について木更津市を東京湾開発の拠点として副県都に整備するというのが新しいねらい」となっていました。こうした加納構想は、「さきに県で立案した長期計画を新しい観点から再検討し、加納知事の方針にそって修正したもの」とされていますが、ここでいう「さきに県で立案した長期計画」とは、柴田知事のもとで、1962(昭和37)年5月に策定された「千葉県長期計画」をさします。

千葉県は、1950年代初頭の川崎製鉄千葉製鉄所の建設を契機に、京葉臨海工業地帯の造成に乗りだしますが、それを実施するための青写真として、いくたびか京葉臨海工業地帯造成計画を作成します。

表は、その京葉臨海工業地帯造成計画を千葉県長期計画と加納構想とで比較したものです。みられるように、加納構想では、長期計画と比べ、木更津地区(木更津市・君津郡)の埋立造成面積が2970haから6115haへと倍増されています。

加納構想は、決して机上のプランだったわけではなく、その下敷とされた構想が存在しました。それは小川構想と呼ばれるものです。

ひさよし

2 下敷とされた小川構想

・小川構想とは 小川構想の小川というのは、国土総合開発株式会社社長、藤田観光社長などをつとめる小川栄一氏のことです。国土総合開発株式会社は、工業用地や宅地の造成、港湾の浚渫、埋立てなどの事業を行う目的で、

1960(昭和 35)年に設立されました。株主には、重化学工業・建設業・不動産業・金融業など多様な部門の日本有数の大企業が名を連ねています。国土総合開発株式会社は、木更津市桜井地先から現在の富津市萩生地先にいたる海面2100万坪(約7000ha)を埋め立て工業用地や宅地などを造成し、隣接の背後地とあわせ将来100万人の人口を収容できる「理想的な工業都市」を建設することを計画します。富津岬・走水(横須賀市)間の海上架橋も計画の一部に組み入れられていました。この木更津以南の大規模な開発計画(小川構想)は、工業用水の確保、道路の建設整備などの関連施設を含めかなり具体的に立案されており、埋立地には、八幡製鉄と東京電力を中心に三菱・三井・住友系の企業などあわせて約40社が進出を予定しているとされます。この計画に対しては、1961(昭和36)年7月の閣議で「極めて適当な考えである」とし、政府(池田勇人内閣)としてこれに協力する方針をとることが了承され、同年9月には、国土総合開発株式会社から公有水面埋立免許申請書が千葉県へ提出されました。

・加納知事の評価 この申請書は、柴田知事ときには棚上げされますが、後任の加納知事は、小川構想を、「非常に大きな立派な案である」(1962年11月県議会での発言)と好意的に評価します。小川・加納両氏は、「ネオ・トウキョウ・プラン」という東京湾の壮大な開発計画を発表した産業計画会議の会員でした。加納知事は、「立派な案」とみなす小川構想を下敷に、木更津地区の大掛かりな開発を企図したと考えられます。

しかしながら、加納構想は、1963(昭和38)年2月の加納知事の急逝により、再検討されることになり、小川構想も実現をみずに終わります。

3 友納県政下の開発行政

・友納知事の開発方針 加納知事の後任を決める知事選挙では、加納知事のもとで副知事をつとめた友納武人氏が当選します。友納氏は、加納県政の継承を唱えて知事に当選しますが、開発行政のあり方については、加納県政の修正をはかりました。

友納知事は、当選直後の1963(昭和38)年5月、京葉地帯への進出企業の団体である京葉地帯経済協議会の総会で、次のように述べています。

加納前知事は、知事というものは千葉県というものを、こういう方向を決めたならば、その方向にもってゆける、すべてをその線に合わせるといふ考え方のもとにマスタープランをつくらうとしたが、そのような考え方を少し変え、柴田元知事のもとで、経済の動向、産業の進展の状況、県民生活の現状等から推測して自然な経済のなりゆき、こういうふう発展してゆくであろうと

いう推定により作成された長期計画の線にそって県の行政を行いたい。加納知事の開発方針は、マスタープランを定め、工業地帯の造成などの計画をその方向に一挙にもってゆこう

とするものだとし、これと異なり、柴田元知事のとときに作成された長期計画により、「自然な経済のなりゆき」にそって着実に行政を行う方針が表明されています。

実際、友納県政下での最初の総合開発計画である「千葉県総合5か年計画」(1964年7月発表)は、柴田県政のもとで作成された長期計画を基礎に策定されたものでした。この計画では、木更津南部地区について、1968(昭和43)年度までの5年間に、当面八幡製鉄を中心として825haの土地造成を行うとされ、木更津地区に6115haの土地造成を計画していた加納構想と比べ、目標年次の違いがあるものの、埋立面積の大幅な縮小がはかられています。

八幡製鉄は、1961(昭和36)年に木更津・君津地区への進出を決定していました。

・小川構想の評価 友納知事は、小川構想に対し「県民のあいだに、危険な、千葉県のためにならないいろいろな思想を含んでいるのではないか」といふような考え方がある(1963年7月の県議会での発言)、として否定的な見方をとっていました。そのため、小川構想に依拠し、木更津地区の大掛かりな開発を企図した加納構想は、さしあたり八幡製鉄を中心とした土地造成を行うとする漸進的な計画に修正されたのです。

・木更津南部地区のゆくえ もっとも、木更津南部地区は、重化学工業の用地として優れた立地条件を有しているとされ、その後の友納県政下における数々の総合的または長期的な計画のなかに、将来この地区を重化学工業地帯として整備しようとする計画が組み込まれます。

しかし、1970年代(昭和40年代後半)になると、工場の排出する煤煙による大気汚染など公害問題が深刻化し、人びとの間に環境保全を求める気運が強まります。富津地区には、東京電力・三井グループ・三菱グループなどの企業が立地を予定していましたが、1971(昭和46)年に富津町議会と木更津市議会が公害発生のおそれのある企業の進出反対を決議するなど、地元から公害の危険のある業種の立地に反対する動きが高まります。こうした動きを受け、「千葉県第4次総合5か年計画」(1973年6月発表)で富津地区における石油精製・石油化学部門などによる石油コンビナートの立地を中止する方針が示されたのでした。

さらに、1973(昭和48)年10月のオイルショック(石油危機)を機に、高度経済成長に終止符が打たれ、長引く不況で積極的な設備投資が困難になると、富津地区への進出予定企業から計画の見直しや取り止めが相次ぐことになります。

このようにして、木更津地区を大工業都市化し、副県都として整備しようとする加納構想は、加納知事の急逝をきっかけに幻に終わったのですが、もし加納知事が、たとえ1期でもつとめあげていたならば(それ以上であればなおさらですが)、木更津地区、とくに木更津以南の姿は、現在とはかなり違ったものになったことは間違いありません。

【参考資料】

『千葉日報』昭和 37(1962)年 12 月 26 日

表 京葉臨海工業地帯埋立計画の比較

(単位：ha)

地区名	計画名	造成面積	土 地 利 用		
			工業用地	公共・ 港湾用地	緑地・住宅
葛南地区	長期計画	4,083	3,390	-	693
	加納構想	3,305	353	473	2,479
千葉地区	長期計画	4,261	3,093	-	1,168
	加納構想	4,267	2,396	816	1,055
木更津地区	長期計画	2,970	2,970	-	-
	加納構想	6,115	4,800	664	651
計	長期計画	11,314	9,453	-	1,861
	加納構想	13,687	7,549	1,953	4,185

【参考資料】 『千葉日報』昭和 37 (1962) 年 12 月 26 日



ありがとうございました



◆点鐘 13時30分 渡邊慎司会長

木更津東ロータリークラブ事務局メールアドレス eastkisarazu-rc@nifty.com